MORI MORI PRESS

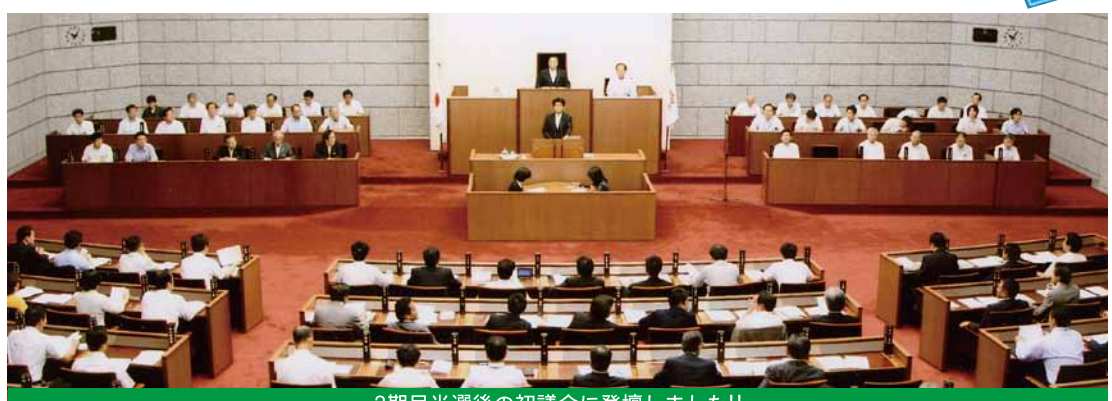
July 7 2011 夏号

モリモリプレス

県政報告 埼玉県議会議員 森田としかずニュースレター
www.morita-toshikazu.com
森田としかず 検索
moritter 森田のつぶやき mori_morita
発行／埼玉県議会自民党議員団

tel.048-530-6001
森田としかず事務所（通称:モリモリオフィス）
〒360-0831熊谷市久保島1003-2
fax.048-530-6002
平日 9:00～17:00(土・日・祝日はお休み)

討議資料


2期目当選後の初議会に登壇しました!!

森田としかず 埼玉県議会6月定例会にて一般質問！登壇!!!

埼玉県議会6月定例会が、6月20日(月)から7月8日(金)まで行なわれました。主な質疑をご紹介いたします。

1 省エネ対策としての植樹について

●省エネルギーのためにも、木を植えることを広く宣伝し、県民の皆さんに実践できる取組を進めるべきと考えるが、いかがお考えか。

〈上田知事答弁要旨〉
住宅、建築、造園関係の方々にも、家を建てる方に樹木の省エネ機能を紹介し、木を植えることを勧めていただくよう働きかけていきたいと考える。

森田はこう動く！
グリーンカーテンは有効ですが一年限り。永続的で、CO_2削減にも大きく貢献する日陰の森づくりを積極的に進めていきます！

2 エネルギーの使途に見合った自然エネルギーの利活用について

●太陽熱利用システムも普及させるべきと考えるがいかがか。

〈環境部長答弁要旨〉
家庭で給湯に使用されるエネルギー割合は、一戸建住宅の30％に対し集合住宅では45％に上る。このため、まずは集合住宅での太陽熱利用の普及拡大を進めるべきと考える。マンションの管理組合などに働きかけ、普及拡大に努めていきたい。

森田はこう動く！
暖房、給湯には電気を使う必要はありません。エネルギーの使い方に一番ふさわしい自然エネルギーを活用していきましょう。

3 農産物、畜産物に対する放射能対策について

●農家がスムーズに損害賠償請求できるよう、ぜひとも農家の皆さんを応援していただきたいと思うが、考えを伺う。

〈農林部長答弁要旨〉
農業団体と連携して、必要書類の周知を図るとともに、情報提供や相談を受けるなど、スムーズに損害賠償請求ができるよう努めていく。

森田はこう動く！
風評被害の補償手続きは、これから始まります。補償を受けられるはずが、書類が整わずに請求できなかった…ということが起きないよう、農家の方を支援いたします。

4 1日保育士体験について

●100％の実施・参加を目標としているが現状はいかがか。目標達成の方策を考えているか。家庭保育室についても目標に加えていただきたい。

〈福祉部長答弁要旨〉
現状は、保育所95％、幼稚園88％で実施。今後も積極的に促進していきたい。家庭保育室については、一定規模以上の施設での実施を働きかけていく。

森田はこう動く！
全園での実施が射程に入りました。あとは、全部の保護者の皆さんに体験していただけるよう、積極的に意義や楽しさをPRします！

5 農業大学校の移転について

●移転準備の進捗状況についてお尋ねしたい。

〈農林部長答弁要旨〉
用地確保は85％の同意を得ており、年内には土木造成工事に着手できるよう進めている。カリキュラムの充実を図るため、7月に検討会を立ち上げ、構想を具現化していく。平成25年4月開校を目指し、ハード、ソフト両面の準備を進めている。

森田はこう動く！
農林総合研究センターに隣接する場所に移転予定の農業大学校。地元農家や関係団体にもメリットのある内容にすべく、働きかけています！

資料を示しながら鋭く質問!!

250名の方が傍聴に駆け付けてくださいました!!

早速 新聞にも掲載!!

1等米生産へ講習会
彩のかがやき 高温障害対策 県が350回実施

県産ブランド米「彩のかがやき」を高温障害による被害からすべり、1等米を多く生産するため、県が農家数戸単位を対象にした田んぼでの「あさ講習会」を実施することが明らかになった。森田俊和氏（自民）の一般質問に答えた。

昨年は猛暑による影響で、米が高温障害を受け、白未熟粒が発生。規格外米が多発する原因と考え、被害農家は約2万4千戸、被害額は約32億円に上った。

県は7、8月を高温障害を回避するための強化月間に定め、県農業支援課によると、8カ所の県農林振興センターの普及指導員約150人を総動員し、850回の「あさ講習会」を開催。同課は「田んぼで作業をしているところへ出向き、栽培の工夫や取り組みなど聞いたり、こちらからアドバイスしたりと、きめ細かい指導で1等米の生産につなげたい」と考え。

県生産振興課によると、農林総合研究センター（熊谷市）に本年度、人工気象室を開設、協議を再現し、高温障害からの防ぐ栽培技術の研究と取り組んでいる。さらに昨年の彩のかがやき（米米）を約150サンプル集めて、状態を比較。農家への調査から夜間に冷たい水を足すことや、窒素分の補給が有効であることが分かったという。

海北環境林部長は「今秋には品質のよい1等米の収穫に結び付けたい。全量販売を目指して取り組みたい」と答えた。

（砂生敏一）

～埼玉新聞 平成23年7月1日～

詳しいやり取りは、県議会のホームページをご参照ください。録画がご覧いただけます。http://www.pref.saitama.lg.jp/s-gikai

森田の森づくり Morita no Morizukuri

目指せ年間100万本!! これまでに250万本を達成!!

震災後、緑の大切さが再認識されています。一つは省エネルギー、一つは防災という側面です。緑で木陰を作り、クーラーに頼らない生活をする。あるいは万が一の地震、火災などから建物を守ってくれる緑を植える。１年間に100万本という目標を達成し、「一人一本植樹運動」を進める埼玉県が率先して緑化を進めて行かねばなりません。

植樹カウンター稼働中!!

あなたの1本は、明日の埼玉の710万本になる
2年間で、250万本達成!!

さくら運動公園にて育樹祭 7/3

式典

どんぐりの幼木の受け渡しの集い 6/19

記念植樹
みんなで森をつくる集い(川越) 6/4